

祈り

■はじめに・・・学びの目的

私たち、新約の聖徒は、どのように祈ればよいのでしょうか。

「天にいます私たちの父よ」という呼びかけで始まる「主の祈り」(マタイ 6 章)は、主イエス・キリストが教えてくださった祈りのパターンであり、祈りの対象は、父なる神であることは、よく知られています。

しかし、「イエス様」という呼びかけで祈る人、三位一体の神のそれぞれの位格をお呼びして「父なる神様、イエス様、聖霊様」と祈る人、さらには、とくに聖霊の満たしを求めるときなどに「聖霊様」と祈る人など、さまざまです。

何が正しいのでしょうか。あるいは、どういう呼びかけであっても、真心をこめて神様に祈るのなら、呼びかけは違ってもかまわないのでしょうか。

そこで、**「誰に対して祈ればよいのか」**、それが第一のテーマです。

また、主イエス・キリストは、「わたしの名において」父に求めるように、と言われました。そのため、私たちは、「天の父なる神様」という呼びかけで祈りを始め、「主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」という結語で祈りを締めくくります。

しかし、「主イエス・キリストの御名によって」ということばは、単にそのように唱えればよいというものではないことは、使徒 19 : 13~17 の「魔よけ祈禱師事件」に見るとおりです。

では、**「主イエス・キリストの御名によって」祈るとは**、どういうことでしょうか。それが第2のテーマです。

さらに、祈るときには、「聖霊の助けによって祈る」とも言われます。これはどういう意味でしょうか。また、祈りの内容そのものについて、私たちは何を祈ればよいのでしょうか。

そこで、**「聖霊の助けによる祈りとは」**を第3のテーマ、**「何を祈るか」**を第4のテーマとします。

■第一のテーマ 「誰に対して祈ればよいのか」

1. イエスが公生涯の中で、祈りについて教えた箇所

- (1) マタイ 6 : 6 祈るときは、・・・あなたの父に祈りなさい。
- (2) マタイ 6 : 9 だから、こう祈りなさい。「天にいます私たちの父よ・・・
- (3) マタイ 7 : 7~11 求めなさい。そうすれば与えられます。・・・天におられるあなたがたの父が、どうして求める者たちに良いものを下さらないことがありましよう。
- (4) ヨハネ 14 : 13~14 あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それ

をしましょう。父が子によって栄光をお受けになるためです。あなたがたがわたしの名によって何かを【わたしに】求めるなら、わたしはそれをしましょう。

- ① 【 】の部分は、原文にはない。祈りにおいて求める先は、父なる神であることが前提。
 - ② 「わたしがそれをしましょう」=使徒たちが父なる神にイエスの名によって求めるなら、子なる神であるイエスは父の栄光のために働いてくださる。
 - (5) ヨハネ 15:16 あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父はあなたがたにお与えになる・・・
 - (6) ヨハネ 16:23 まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたに父に求めることは何でも、父は、わたしの名によってそれをあなたがたにお与えになります。
 - (7) ヨハネ 16:24~27 わたしはあなたがたに代わって父に願ってあげようとは言いません。
2. 使徒の働きに記録された祈り
- (1) 使徒 3:6~9 ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい。・・・人々はみな、彼が歩きながら、神を賛美するのを見た。
 - (2) 使徒 4:24 これを聞いた人々はみな、心を一つにして、神に向かい、声を上げて言った。「主よ。あなたは天と地と海とその中のすべてのものを造られた方です。
 - ① この「主」は、父なる神を意味している。
 - ② 4:29~31 主よ。いま彼らの脅かしをご覧になり、あなたのしもべたちに、みことばを大胆に語らせてください。御手を伸ばしていやしを行わせ、あなたの聖なるしもべイエスの御名によって、しるしと不思議なわざを行わせてください。」彼らがこう祈ると、・・・
 - (3) 使徒 8:22 だから、この悪事を悔い改めて、【主】に祈りなさい。
 - ① この【主】は、別の写本では「神」。すぐ前の 21 節で「あなたの心が神の前に正しくない」とある「神」と同じことば。
 - ② 8:24 では、魔術師シモンが、「私のために主に祈ってください。」と願っている。ここはいずれの写本も「主」。
 - ③ 8:14 「神のことば」、8:25 「主のことば」とあるので、「主」は父なる神を指すとも取れます。使徒 4:24 では、父なる神を指していたので、ここもそのように考える方がよいと思います。
 - (4) 使徒 27:35 彼はパンを取り、一同の前で神に感謝をささげてから、・・・
3. パウロの書簡に記録された祈り
- (1) ロマ 15:6、30~33 私たちの主イエス・キリストの父なる神をほめたたえるためです。
 - (2) ロマ 16:25~27 あなたがたを堅く立たせることができる方、知恵に富む唯一の神に、イエス・キリストによって、御栄えがとこしえまでありますように。
 - (3) I コリ 1:3 私たちの父なる神と主イエス・キリスト
 - (4) I コリ 1:4 私は、キリスト・イエスによってあなたがたに与えられた恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも神に感謝しています。

人信者は、「アブラハムの子孫」、「約束による相続人」となり、「神の子」となる。そして、神の子となれば、ユダヤ人信者（＝イスラエルの残れる者、レムナント）と同様に、天にある霊的祝福に与る。従って、私たち異邦人信者も、メシアの王国（御国）を受け継ぐ（ユダヤ人信者は、アブラハムに約束された地域を、異邦人信者は、それ以外の地域）。

6. 結論：以上の箇所を見てくると、「主イエス・キリストの名によって」祈るということは、次の3つの意味があると言えます。
- (1) 「主イエス・キリストの名によって」祈るとは、イエスへの愛と信仰の表明です。この愛と信仰を父なる神は大変喜ばれ、私たちの祈りに答えてくださいます。
 - ① イエスを愛し、イエスを神から出て来た者と信じること
 - ② 神がイエスを死者の中からよみがえらせたことを信じること
 - (2) 「主イエス・キリストの名によって」祈るとは、大祭司なるイエスを通して神に祈るということです。
 - ① 私たちは試みに弱く、失敗しやすい者ですが、イエスは私たちの弱さをよくわかってくださいます。イエスは私たちのために神の御前でとりなしをしてくださる大祭司です。
 - ② イエスが代わって祈るのとは、違います。私たちは、イエスがとりなしてくださるから、大胆に神に近づくことができるのです。
 - (3) 「主イエス・キリストの名によって」祈ることは、私たちが祝福を受け取るようにと神が定めた通り道です。神は、イエス・キリストにあって天の霊的祝福を与えてくださいます。霊的祝福とは、聖霊を受けることによって受け取ることのできる祝福とも言えます。次の4つです。
 - ① 神の子となるように選ばれた
 - ② 罪の赦しを受けている
 - ③ 一つに集められる
 - ④ 御国を受け継ぐ

■第3のテーマ「聖霊の助けによる祈りとは」

1. 聖霊とはどういうお方でしょうか
 - (1) ヨハネ 14：16 聖霊は、信者にとっては、「もうひとりの助け主」と呼ばれます。
 - ① イエスが一人目の助け主です。
 - ② 聖霊は、信者にとって、イエスと同じようなもうひとりの助け主です。
 - ③ イエスが天に昇っても、信者はひとり残されることはありません。聖霊がわたしたち一人ひとりの中に住んでくださって、助けてくださいます。
 - ④ 聖霊は、私たちの弱さや苦しみを覚えておられ、同情して下さり、慰め、力づけてくださるお方です。
 - ⑤ ヨハネ 14：26 聖霊は、使徒たちにすべてのことを教え、イエスが使徒たちに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます
 - (2) ヨハネ 14：17 聖霊は、この世に対しては、「真理の御霊」と呼ばれます。

- ① 世は、聖霊を受け入れることができません。聖霊を見もせず、知りもしないからです。
- ② ヨハネ 15 : 26 聖霊は、イエスについてあかしします。
- ③ ヨハネ 15 : 27 使徒たちもあかしします。初めからイエスといっしょにいたからです。
- ④ 聖霊は、世に対して、次の表にあるように 3 つの項目について、誤りを認めさせます (ヨハネ 16 : 8~11)。

項目	この世の理解 (誤り)	真実 (真理)
罪	罪とは、モーセの律法に違反すること、あるいは道徳律や法律に背くことである。	罪とは、イエスを信じないことである。そのほかのすべての罪は十字架においてイエスが負った。そのことを信じなければ、その人は神を偽り者とするのである。
義	イエスは義人でない。悪霊に憑かれた魔術師であり、十字架にかかって呪われた死を遂げた男である。	イエスが死から復活し、天に昇って神の右の座についたということは、イエスが義人であったことを神が証明したことである。
さばき	十字架処刑は、イエスが神から呪われ、神に打たれたことの証拠だ。つまり、イエスは神によって裁かれたのである。	イエスは誰によって殺されたわけではない。十字架に至るまで神に従順を通し、自らのちを捨てた。その死によって、死の力を持つ者=サタン、すなわち「この世を支配する者」を無力化した。つまり、神はサタンを裁かれたのである。

- ⑤ ヨハネ 16 : 13 聖霊は、誤りを認めさせた人をさらに導いて、「真理=神のみことば=イエス・キリストの中に導き入れる」という段階に進ませます。この段階では、信者になっていますから、「世」ではなく、「あなたがた (=イエスの弟子たち)」を、とります。
- ⑥ ヨハネ 17 : 15 聖霊は、信者をこの世から取り去るのではなく、悪い者 (=サタン) から守ります。
- ⑦ ヨハネ 17 : 16~17 聖霊は、信者を「この世」から聖別します。この世にいながら、この世の者ではない生き方をさせます。その原動力となるのは、「真理=神のみことば=イエス・キリスト」です。

2. 「助け主」は、「救い主」とは違います。

(1) 「助け主」の原語の意味は、「慰める者」です。

- ① 原語自体には「主」や「神」の意味はありません。
- ② 旧約聖書で人に使われる場合は、葬儀のときに弔問して遺族を慰める人や病

気の人を見舞う人を指します。

● IIサム 10 : 3、詩 69 : 20

(2) 「救い主」の原語の意味は、「救助者」です。

① 原語自体には「主」や「神」の意味はありません。

● ルカ 2 : 11、士師 3 : 9

(3) 人の救いという文脈では、順番から言うと、まず、「救い主」が登場します。救い主とは、信者を生み出すお方です。人を、罪人の立場から信者の立場に移す働きをしてくださいます。次に、「助け主」の登場です。先に述べたように、助け主とは、信者を慰める者です。

3. 救い主は、父なる神と子なる神です。

(1) 父なる神は、人を救うというみこころを発し、そのための計画をお立てになりました。救いのみわざにおける、**本源的な救い主**です。

(2) 子なる神、主イエス・キリストは、父のみこころを受けて、その通りに実行しました。救いのみわざにおける、**実行者としての救い主**です。

(3) この関係は、旧約聖書においても示されています。

① イザヤ 45 : 15

② イザヤ 63 : 9

(4) 新約聖書でも、救い主に関するこの関係が見られます。

① 使徒 5 : 31

② 使徒 13 : 23

③ I テモテ 1 : 1

④ I テモテ 2 : 3

⑤ II テモテ 1 : 10

⑥ ペリピ 3 : 20

4. 助け主は、子なる神と聖霊なる神です。

(1) 助け主は、先に述べたように、「慰める者」です。信者が自分の弱さや苦しみの中にあるときに慰めてくださるお方です。

● II コリ 1 ; 4、7 : 6 慰めの本源は父なる神

(2) 一人目の助け主は、子なる神、主イエス・キリストです。

① イエスは、天に昇ったあと、神の右の座に着かれました。

② しかし、ただ座っておられるのではなく、「大祭司」として私たちを助けてくださっています（ヘブル 4 : 15～16）。

(3) もうひとりの助け主が、聖霊なる神です。聖霊は私たち一人ひとりの中に住んでくださっていて、私たちの祈りを導いてくださいます。

5. 聖霊の助けによって祈るとは

(1) 聖霊は、キリストの御霊です（ロマ 8 : 9～10）。

① キリストが私たちのうちにおられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、私たちの霊は、キリストの義によって、生きています。

② 祈るとき、私たちは、ありもしない自分の義ではなく、キリストの義を頼りにしましょう。そうすると私たちの霊が生かされ、神に祈ることができます。